

しば子先生の

ミニミニ芝生教室

生徒：先生、よく芝生に窒素を与えるとき、暴れるとか、出来過ぎるとか言うことがありますけど、あれってどういう意味なのでしょう？

先生：いい質問ね・・・人間は、特に日本人はどうしても擬人化したりイメージで自然現象をとらえようとする傾向があるわね。芝が太るとか寝るとか・・・でもこれらは科学的な根拠のない”感覚言語”・・・科学は主観的ではなく客観的なものでなければならぬはず・・・

生徒：でもすべての自然現象が客観的に説明できるのでしょうか？

先生：もちろん科学ですべてが説明できるわけではないし日々変わる、刻一刻変わる自然条件を完全に科学的に網羅して管理することはまだできていないわね・・・もちろんその試みは日々行われているけどね・・・ただきちんと科学的知識を身に付けた上で状況を判断すると、経験知だけの主観で判断するのは危険度が違うし無駄も多くなるわ・・・

生徒：たとえばどんな点が問題でしょうか？

先生：たとえば窒素にまつわる話は典型的な例だわ・・・人間は窒素が入っている肥料を与えれば、与えた肥料の窒素を吸収して芝生が伸びると単純に考えてしまいがち・・・

生徒：ええ、肥料をまけば芝生が吸収する・・・単純なことですよ・・・

先生：しば代ちゃん、世の中そんなに簡単じゃないのよ・・・あなたもまだ若いね・・・(笑)

生徒：えっ？

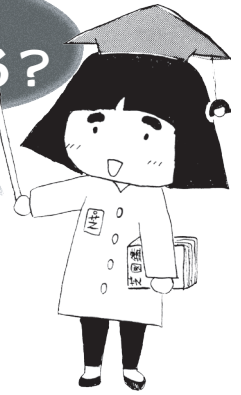
先生：ま、それは冗談・・・まず考えなければいけないのは”どんなタイプの窒素肥料なのか？”と言うこと・・・窒素と言う元素は単体では肥料にならないから、ほかの元素と組み合わせさせて肥料としての化学物質になっているの・・・それがどんな物質だか分からないとどのように芝生に効果が出るかは想定できないわ！無機肥料も天然有機質肥料でもいっしょ・・・芝生が吸収す



Presented by 株式会社 ヒューエンタープライズ

<http://www.hugh-enterprise.co.jp>

第3回 窒素が利いてる？



るのはイオン化された無機の窒素だけだから。それに効果が表れるのに数時間のものから数年のものまであるのよ！

生徒：そんなに差があるんですか？

先生：そして土壌条件・・・たくさんある窒素肥料もそれぞれ土壌の条件が違ってしまうと効果の出方が変わってくる・・・もちろん土壌中にすでに存在している窒素成分もあってそれが気候条件によって出てきたり止まったりするわ・・・それも計算に入れなければ窒素のきちんとしたコントロールなんて無理ね・・・そして最後は芝生の窒素要求量・・・芝生の種類と気候条件で芝生が窒素を吸収する能力が変わるのよ・・・この三つの条件をしっかりと理解していなければ窒素、そして肥料養分の正しいコントロールなんて絵に描いた餅になってしまうのよ！

生徒：複雑すぎて目が回りそうです・・・どうすればいいか分からなくなりました・・・

先生：肥料の知識をきちんとつける・・・土壌学の基礎を理解する、土壌分析、葉身分析結果を正しく理解する力をつける・・・後はきちんと計測器で日々の気象条件や土壌温度の変化をチェックする・・・これが基本ね・・・そうそう最近では窒素が葉緑素の構成に最も重要な役割を果たしていることから芝生用の葉色計で葉色を計って窒素肥料が十分かどうかをチェックすることができるようになったわ・・・新しいタイプの芝生は緑が濃いから見た目の色だけでは窒素の肥効を判断することが難しくなってきたので、これを使うことによって葉身分析をしなくても窒素の施肥の効果を数値で客観的に判断できるわね。

米国スペクトラム社製芝生用葉色計

『フィールドスコートTCM500 NDVI』



成長エネルギーを作る光合成をするための葉緑素は芝生のエンジンと言える。葉緑素が減ると日照があっても日照不足となる。窒素の欠乏は葉緑素の欠乏を引き起こす。この葉色計は葉緑素が吸収する波長の光を照射して反射してきた量で葉緑素の量を計ることができ